

吉本隆明に継ぐ、思想・理論家！

山本哲士著

# 『述語制の日本語論と日本思想』

主語制「国語」への言語革命 序説

日本語に主語はない、コプラもない！

主語制言語へ統合化された

国家語Ⅱ国家資本に対して、

日本語本来の述語制様式を近世の文法

から示し、近代での変容を批判解体する。

日本語・日本文化の述語制は、主客分離の西欧的な近代普遍性を超える普遍力を有する。てにをはが、五十音に配置され、活用が独立させられていく。富士谷成章、本居宣長・春庭から鈴木胤をへて東条義門らへと変容する近世文法を見直し、山田孝雄、橋本・時枝の国語学の転倒、そして和辻哲学の転倒を批判。「主語Ⅱ主体」化された国語学・哲学の誤認を明らかにし、述語制の普遍をイリイチ、フーコー、ブルデュー、吉本隆明の理論を活用し、松下大三郎／佐久間鼎／三上章の述語的文法を再評価し、世界へ開く画期的な書。経済も政治も技術科学も、主客非分離の述語制によって、現在日本の閉塞状況を突破できる。

2019年11月11日発売

文化科学高等研究院出版局  
ehescbook.com



616 ページ ペーパーバック版  
A5 版  
定価 本体 3800 円+税  
C1010

山本 哲士 (やまもと てつじ)

1948 年生まれ。東京都立大学大学院人文科学研究科、博士課程修了。教育学博士。政治社会学、ホスピタリティ環境設計学。元信州大学教授、元東京芸術大学客員教授。企業環境、環境倫理・環境哲学など、社会環境、文化環境から〈場所 - 地球〉の資本経済／場所政治を近代学問体系を超えて総合的に設計・構築する超領域的研究。

1975 年、イバン・イリイチが主宰したメキシコの CIDOC へ遊学。1986 年より『季刊 iichiko』編集・研究ディレクター。1988 年「文化科学高等研究院 EHESC」を設立、2001 年「スイス・ジュネーブ国際学術財団 F・EHESC」として登記、ジェネラル・ディレクターをつとめ、現在にいたる。2013 年「Japan Hospitality Academy」を設立。2019 年「一般財団法人・日本国際高等学術会議」を設立し、理事長。「文化資本学会」会長。

著書・編著は 60 書以上、編集雑誌は 140 冊以上に及ぶ。『文化資本論』（新曜社）、『新版・ホスピタリティ原論』『哲学の政治 政治の哲学』（文化科学高等研究院出版局）。『ピエール・ブルデューの世界』『吉本隆明の思想』（三交社）『ミシェル・フーコーの思考体系』『イバン・イリイチ』（EHESC 出版局）で思想家 4 部作を完成。国家論 5 部作、『吉本隆明と共同幻想論』（晶文社）『フーコー国家論』『ブルデュー国家論』『国家と再認・誤認する私の日常』『＜私＞を再生産する共同幻想国家・国家資本』（ともに EHESC 出版局）を完成。『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』『哲学する日本』『＜もの＞の日本心性』『国つ神論：古事記の逆解説』（ともに EHESC 出版局）の日本論連作に続く本書。吉本隆明との対話集『教育・学校・思想』（日本エディタースクール出版部）『思想を読む・世界を読む』（EHESC 出版局）。『吉本隆明が語る戦後 55 年』（三交社）全 12 巻を監修。

注文は JRC へ fax.03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

## 述語制の日本語論と日本思想

山本哲士著

本体 3800 円+税

ISBN 978-4-938710-00-2 C 1010 ¥3800

書店名

部数